

酒巻久著「キャノンの仕事術 - 執念が人と仕事を動かす - 」

祥伝社黄金文庫 2008年12月20日刊を読む

なぜ「自分のために仕事をする」という発想が大事か

1. 「最近、会社より自分が大事で、会社をステップアップの道具にしか考えない若者が増えた」
2. よくそんな話を聞く。そこには、「昔と比べて、今どきの若者は会社へのロイヤリティ(忠誠心)が低すぎる」との思いが^{にじ}滲む。
3. しかし、この手の話には私はいつも違和感を覚える。私たちの若い頃にしても、最初から「会社のため」などと思って働いていた人間は、そうはいなかったと思うからだ。
4. むしろ、「自分のため」「家族のため」と思って、頑張っているうちに、だんだん仕事が面白くなって、いつの間にかその職場がかけがえのないものになっていた…。そんな人が多かったのではないか。
5. だから、まずは「仕事は自分のため」と思ってすることだ。既婚者になれば、これに、「妻のため、子供のため、家族のため」という思いがプラスされて働くのが、いちばん自然だと思う。
6. 「自分のため」というのは、「自分の成長のため」ということだ。自分が成長して、仕事の面白さがわかるようになれば、ますます仕事に対する興味と意欲が湧いてくる。この「自発的なやる気」こそが大事なのだ。やる気さえ出ればしめたもので、俄然^{がぜん}、仕事は面白くなるし、結果、成長に加速度がつくようになる。

P16 ~ 17

[コメント]

まさにその通りと私も考える。「仕事を通しての自己実現」が大事だと考える。

- 2009年5月9日林明夫記 -